

第4学年 国語科学習指導案

- 1 単元 学習したことを生かして「ごんぎつね」 (新美 南吉 作)
 2 学習指導の考え方

このような子どもたちだから

本学年の子どもたちは、「三つのお願い」では、「似た言葉と比べて読む」読みアイテムや「中心となる言葉を読む」読みアイテムを活用して、ノービーの親友への見方を読み取った。また、「白いぼうし」では、松井さんの様子ややさしさを読み取る中で、「この子」や「あの夏みかん」といった「指示語を読む」読みアイテムや「えもの」と「ちょう」を比べて読むなど「似た言葉を比べて読む」読みアイテムを活用してきている。「一つの花」では、お父さんが一つの花を通して伝えたいゆみ子に対する願いやそれを受け止めてきたお母さんと幸せに暮らすゆみ子の様子を読み取った。その中で、「句読点を読む」読みアイテムを習得してきた。既習の読みアイテムを活用しながら人物像を読み取ることは大体できるようになってきているが、ことばをつないで書き込みをする子は多くはない。

このような教材で

本教材「ごんぎつね」は、冒頭に語り手が登場し6つの場面に「ごん」の気持ちの変化が時系列で描かれている。題名の「ごんぎつね」は、死ぬまで心が通い合わなかったひとりぼっちのごんの寂しさを象徴しており、文末表現や言葉のくり返しなどにごんの様子や気持ちが表れ、人物像を読み取ることができる。

こうした特質を踏まえて、本教材で習得、活用する読みの技能を次のように考えた。

(活) くり返しの言葉を読む
 「おれが」「そのおれごま」から自分の存在に気付いてほしいごんの気持ちを読む。

(活) にた言葉と比べて読む
 「ついていきました。」「つけていきました。」から兵十に近づきたいごんの変化を読む。

(活) 指示語を読む
 「こいつはつまらないな。」からごんの兵十に気付いて欲しい気持ちを読む。

(活) 文末表現を読む
 「ちがいない」からごんの思いこみを読む。

(活) 自分と比べて読む
 「夜でも昼でも」「次の日もまたその次の日も」からごんひとりぼっちの寂しさを読む。

(習) 場面と場面をつないで読む
 「おれは引き合わないなあ。「その明るる日も・・・」からがっかりしたごんが 兵十のことを思いつぐないをした気持ちを読む。

(習) 呼称の変化を読む
 「ぬすつとぎつねめ」「あのごんぎつねめが、」「ごん」から兵十から名前を呼んでもらえたごんのうれしい気持ちを読む。

このような指導・支援を行いながら

○ **つかむ段階**

- ・ 冒頭の「これは」という指示語がこれからの話を指していることをとらえさせ、「わたし」という語り手が設定されている物語であることに気付かせる。
- ・ 小さい頃に聞いた話を書こうとしている意図を考えさせ、読みのめあてをつくらせる。
- ・ さし絵をもとにあらすじをとらえさせる。
- ・ 読みのめあての答えを話し合い、読みのずれやあいまいなところを確認し、どこをどのように読み確かめていくか計画を立てさせる。

○ **深める段階**

- ・ 学習計画をもとに中心文について、書き込む視点をはっきりさせて、自分の読みをもたせる。
- ・ 前時の書き込みについて、二人組で交流させ、自分の読みについて根拠をはっきりさせる。
- ・ 子どもの読みの違いや傾向を把握したカルテを活用した意図的指名や列指名によって、子どもの読みを広げたり、深めたりする。
- ・ 活用したり習得したりした読みアイテムについて確認し、読み取りノートに記録し、定着を図る。

○ **まとめる段階**

- ・ これまでに読み取ってきたごんの寂しさをもとに、話の続きを書くことができるようにする。
- ・ この単元で習得・活用した読みアイテムを振り返り、カードにした物を掲示して定着を図る。

このような目標を設定して学習指導を展開します

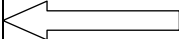
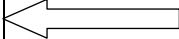
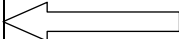
○ いたずら、後悔、つぐない、期待、落胆、死という展開で描かれているごんの姿を通して、語り手が伝えたい、ひとりぼっちのごんの死んでからしか分かってもらえなかったせつなさを読み取ることができる。

○ 「くり返しを読む、指示語を読む、文末表現を読む」読みアイテムを活用しながら、「場面と場面をつないで読む、呼称の変化を読む」読みアイテムを習得することができる。

3 学習指導計画と評価規準 (全17時間)

		評価規準	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力
			<ul style="list-style-type: none"> 既習の読み方を活用して、ごんの気持ちの変化を読み、自分の考えを表現し、互いの考え方や感じ方の違いに気づいて自分の読みを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、兵十との関わりの中からごんの寂しさを読み取っている。 読み取った内容について自分なりに感想や意見をまとめている。 友だちとの交流において、叙述をもとにごんのひとりぼっちの寂しさについての読みを深め合っている。
過程	配時	主な学習活動 (◎は見通す活動と見直す活動)	単位時間ごとの具体的な評価規準 数字は見通す活動・見直す活動での評価規準 ()は評価	
つかむ	1 / 17 (4組本時)	1 題名「ごんぎつね」について話し合う。 ◎ 学習してきた読み方を確認し、題名の働きについて話し合うことで見通しをもつ。 2 冒頭の読みを話し合う。 (1) 「これは」という指示語がこれから続く話を指していることをとらえる。 (2) 「わたし」という語り手が設定された物語であることに気付く。 3 題名と冒頭から、読みのめあてをつくる。 ◎ 「わたし」と「お話」に着目して読みのめあてをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読みのめあて ①「ごんぎつね」とは、どんなお話だろう。 ② このお話で、何が語り手の心に残ったのだろう。 </div>	① 既習の物語文の題名から役割を考えたり、題名や冒頭から読み取ったことをもとにごんの気持ちを追うという読む視点をもっている。(発言・プリント)	(活) 指示語を読む 語り手が登場する物語であることをとらえる。 (活) 人物・時・場所を読む 物語の設定を読むこと。 ① 読み取ったことをもとに疑問を書き込み、めあてをつくっている。(プリント)
	2 ・ 3 / 17	1 読みのめあてに沿って全文を読み通す。 ◎ 全文を読み、場面の構成をとらえる。 (1) 音読をする。 (2) 難語句の意味について辞書で調べる。 2 場面ごとにごんの気持ちがわかる叙述をおさえ、あらすじをまとめる。 (1) 読みのめあて①の答えを130字程度で書きまとめる。 (2) 書いた答えを見直し、修正する。 ◎ 二人組で自分なりにあらすじを話す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (予想される読みのめあて①の答え) ひとりぼっちでいたずらばかりしていたごんが、自分のいたずらのせいで、兵十のおつかあが死んだと思いで、兵十に償いをしようとする。加助と兵十の話から自分のことだと気付いてもらえずにがっかりするが、それでも兵十の家に行き、最後に兵十に撃たれて死んでしまう話。 </div>		(活) 人物・時・場所を読む 時を表す言葉に着目していること ② 時間の順序にそって主語述語をはっきりさせながらあらすじをまとめている。(プリント)

<p>4 ・ 5 / 17</p>	<p>1 読みのめあて②の答えを考える。 ◎ 読みのめあて②の答えを二人組で話し合う。 (1) 語り手の心に残ったことについて根拠の叙述を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(予想される読みのめあて②の答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごんの一生懸命つぐないをしたのに分かってもらえなかったさびしさ ・ ごんの最後には分かってもらえたうれしさ </div> <p>2 読み確かめる学習計画を立てる。 ◎ 自分の考えを付加修正し、読む視点をはっきりさせる。</p>		<p>③ 自分の読みが追加修正し、どこを読み確かめるか書きまとめている。(発言・プリント)</p>
<p>深める 6 / 17</p>	<p>1 いたずらばかりするごんの様子を表す叙述をさがす。 ◎ 「ひとりぼっちの小ぎつね」「夜でも昼でも」「いたずらばかり」「・・・ほりちらしたり・・・火をつけたり・・・むしり取っていったり」という叙述に着目し、使えそうな読みアイテムを話し合う。 2 話し合ったことから書き込みの視点をはっきりさせ、書き込む。 ◎ 書き込んだことをもとに自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>	<p>② 既習の読み方を活用して、ごんの気持ちを読み、自分の考えをつくっている。 (プリント)</p>	<p>(活) くり返しを読む 「たり」からいくつもいたずらをしたことを読む。 ④ ごんの行動の叙述からひとりでいたずらをするくらいひとりぼっちの寂しさを読んでいる。 (プリント)</p>
<p>7 / 17</p>	<p>1 書き込みをもとに話し合いの視点を明確にする。 ◎ 自分の書き込みをもとに二人組で話し合い、付加修正する。 2 ごんの行動の叙述をもとに話し合い、気持ちを想像し、ごんのさびしさを読み取る (1) 「ひとりぼっちの小ぎつね」からごんの家族や友達がいなくてという人物像を読み取り、話し合う。 (2) 「夜でも昼でもいたずらばかり」から、ごんの気持ちを読み取り話し合う。 (3) 「ほりちらしたり・・・火をつけたり・・・むしり取ったり・・・」からごんの寂しさを読み取り、話し合う。 3 本時で習得・活用した読み方をふり返り、読み取ったことを書きまとめる。 ◎ 話し合っただけで確かになった読みを二人組で話し、自分の考えを付加修正して書きまとめる。</p>	<p>③ 根拠をはっきりさせて発表し、友だちの考えとの重なりや違い、よさを伝えている。</p>	<p>(活) 自分と比べて読む いたずらをする気持ちを想像する。 ⑥ 確かになった読みを板書をもとに、つないで話し書きまとめている。 (プリント)</p>
<p>8 / 17</p>	<p>1 あなたの中でのごんの様子や気持ちの叙述からごんの後悔する気持ちについて書き込みの視点をつくる。 ◎ ごんの思いこみが分かる叙述に着目し、使えそうな読みアイテムを話し合う。 2 話し合ったことから書き込みの視点をはっきりさせ、書き込む。 ◎ 書き込んだことをもとに自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>	<p>←</p>	<p>(活) 接続語を読む ごんが自分勝手に考えていく様子を読む。 (活) 文末表現を読む ごんが思いこんでしまう様子を読む。 ⑦ 「それで、ところが、だから」「できなかった、ちがいない、だろう」の叙述からごんの思い込みを読んでいる。(プリント)</p>

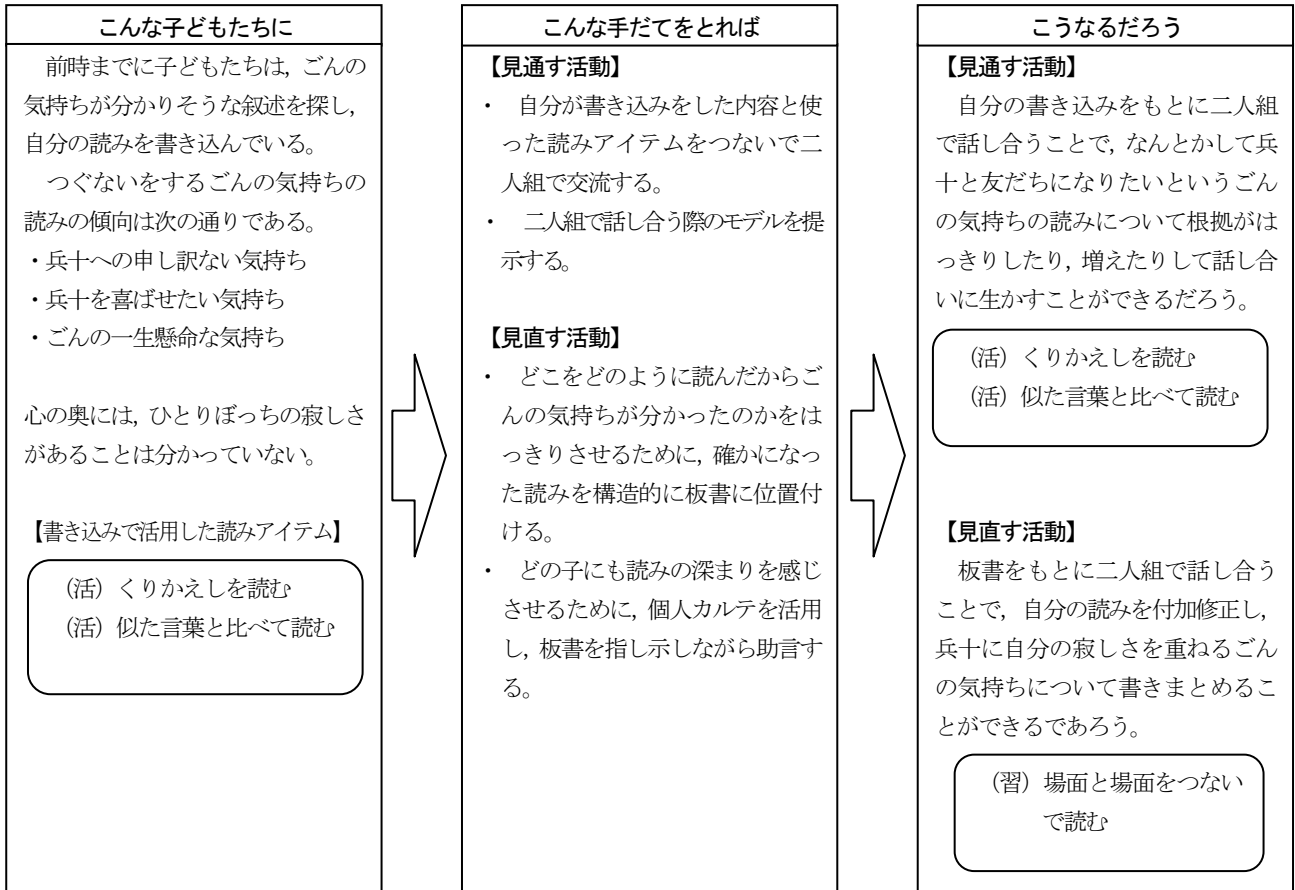
<p>9 / 17</p>	<p>1 書き込みをもとに話し合いの視点を明確にする。 ◎ 自分の書き込みをもとに二人組で話し合い、付加する。 2 ごんが思いこむ様子をもとに話し合い、兵十への思いを読み取る。 (1) 「ちよっ、」からごんの後悔を読み、自分のいたずらのせいでおっかあが死んだと後悔するわけを話し合う。 (2) なぜ、うなぎのいたずらの後悔をそれほどまでするのか考え、話し合う。 3 本時で習得・活用した読み方をふり返り、読み取ったことを書きまとめる。 ◎ 話し合っただけで確かになった読みを二人組で話し、自分の考えを付加修正して書きまとめる。</p>		<p>⑧ 確かになった読みを板書をもとにつないで話し、書きまとめている。(プリント)</p>
<p>10 / 17</p>	<p>1 兵十につぐないをするごんの様子や気持ちについて書き込みの視点をつくる。 ◎ ごんの兵十への思いと寂しさがわかる叙述に着目し、使えそうな読みアイテムを話し合う。 2 話し合ったことから書き込みの視点をはっきりさせ、書き込む。 ◎ 書き込んだことをもとに自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>		<p>(活) 似た言葉と比べて読む かかえるともつを比べて、大事そうに持っている様子を読む。 (活) くりかえしを読む 兵十に償いたいごんの思いを読む。 ⑨ 「次の日には、次の日も、その次の日には」「おれと同じ～」の叙述についてくり返しを読んだり、場面をつないで読んだりしてごんの兵十への思いを読んでいる。(プリント)</p>
<p>11 / 17 (3組本時)</p>	<p>1 書き込みをもとに話し合いの視点を明確にする。 ◎ 自分の書き込みをもとに二人組で話し合い、付加する。 2 つぐないをするごんの様子から、兵十への思いを話し合う。 (1) 「次の日には」「次の日も」「その次の日には」「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」という叙述のごんの思いを話し合う。 (2) 「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」からごんの気持ちを話し合う。 3 本時で習得・活用した読み方をふり返り、読み取ったことを書きまとめる。 ◎ 話し合っただけで確かになった読みを二人組で話し、自分の考えを付加修正して書きまとめる。</p>		<p>(習) 場面と場面をつないで読む ごんが自分の寂しさを兵十に重ねていることを読む。 ⑩ 確かになった読みを板書をもとにつないで話し、書きまとめている。(プリント)</p>
<p>12 / 17</p>	<p>1 兵十に気付いてほしいごんの様子や気持ちについて書き込みの視点をつくる。 ◎ 「・・・こいつはつまらないな。」 「引き合わないな。」という叙述に着目して、使えそうな読みアイテムを話し合う。 2 話し合ったことから書き込みの視点をはっきりさせ、書き込む。 ◎ 書き込んだことをもとに自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>		<p>(活) 指示語を読む ごんの寂しい気持ちを読む。 (活) くりかえしを読む 兵十に気付いてほしいごんの思いを読む。 ⑪ 「こいつはつまらないな。」 「引き合わないな。」の叙述について指示語を読んだり、くり返しを読んだりしてごんの寂しさを読んでいる。(プリント)</p>

13 / 17	<p>1 書き込みをもとに話し合いの視点を明確にする。</p> <p>◎ 自分の書き込みをもとに二人組で話し合い、付加修正する。</p> <p>2 ごんの様子や言葉の叙述をもとに話し合い、自分に気づいてもらえないごんの寂しさを読み取る。</p> <p>(1) 「・・・こいつはつまらないな。」から、ごんの気持ちを話し合う。</p> <p>(2) 「・・・引き合わないな。」から、ごんの気持ちを話し合う。</p> <p>(3) 「引き合わないなあ」と言った後のごんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 本時で習得・活用した読み方をふり返り、読み取ったことを書きまとめる。</p> <p>◎ 話し合っただけで確かになった読みを二人組で話し、自分の考えを付加修正して書きまとめる。</p>		<p>⑫ 確かになった読みを板書をもとにつないで話し、書きまとめている。(プリント)</p>
14 / 17	<p>1 兵十に気づいてほしいのに撃たれたごんの様子や気持ちについて書き込みの視点をつくる。</p> <p>◎ また兵十のうちへ行き、撃たれたごんの様子や気持ち、兵十のごんの呼び方が変わっていることから、ごんへの気持ちの変化を話し合う見通しをもつ。</p> <p>2 話し合ったことから書き込みの視点をはっきりさせ、書き込む。</p> <p>◎ 書き込んだことをもとに自分の考えと根拠を書きまとめる。</p>	←	<p>(活) 場面と場面を比べて読む 兵十に気づいてほしいごんの思いを読む。</p> <p>⑬ 明るく日も兵十のうちへ行きうたれたごんの様子や兵十のごんへの呼び方が「ごんぎつねめ」から「ごん」になっている叙述を場面と場面を比べて読んで、兵十に分かってもらえたときのごんの気持ちを読んでいる。(プリント)</p>
15 / 17 (5組本時)	<p>1 書き込みをもとに話し合いの視点を明確にする。</p> <p>◎ 自分の書き込みをもとに二人組で話し合い、付加修正する。</p> <p>2 ごんの様子や言葉の叙述をもとに話し合い、ごんの様子や兵十の気持ちの変化を読み取る。</p> <p>(1) くりをもつて兵十のうちに行ったごんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(2) ぐったりと目をつぶったまま、うなずくごんの様子と気持ちを話し合う。</p> <p>3 本時で習得・活用した読み方をふり返り、読み取ったことを書きまとめる。</p> <p>◎ 話し合っただけで確かになった読みを二人組で話し、自分の考えを付加修正して書きまとめる。</p>	←	<p>(習) 呼称の変化を読む 兵十のごんに対する呼び方が変化していることから、兵十の気持ちの変化を読む。</p> <p>⑭ 確かになった読みを板書をもとにつないで話し、書きまとめている。(プリント)</p>
まいごん 16 ・ 17 / 17	<p>1 題名と冒頭に戻り、作者が伝えたかったことを話し合う。</p> <p>◎ これまで読み取ってきたごんの寂しさから、作者が伝えたかったことを題名とつないで話し合う。</p> <p>2 話し合ったことをもとに、ごんが死んだ後兵十が加助にごんの話をしていろいろな人に話が語り継がれていったように続き話を書く。</p> <p>3 本単元で習得、活用した読み方をふり返る。</p> <p>◎ この学習で使った読みアイテムについて振り返る。</p>	<p>⑮ これまでの話をふり返りながら、兵十の行動を想像している。</p>	<p>⑮ これまで読み取ってきたごんの寂しさと題名をつないで、ごんが死んだ後の話の続きを書いている。(プリント)</p>

5 本時の目標

- 兵十に償いを続けるごんの気持ちや兵十に自分の寂しさを重ねるごんの気持ちを読み確かめることができる。
- 「くり返しを読む・似た言葉と比べて読む」読みアイテムを活用し、「場面と場面をつないで読む」読みアイテムを習得することができるようにする。

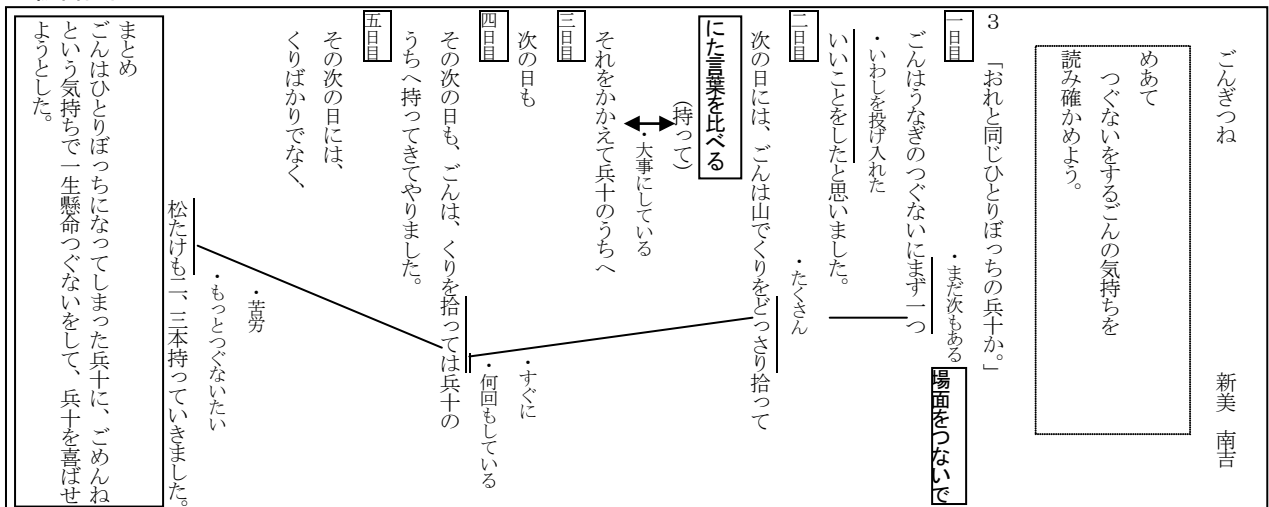
6 本時の授業仮説



7 準備

- 教師…前時までの学習の足跡を記した掲示物、子どもの考えを一覧にしたカルテ、読みアイテムの札
- 子ども…読み取りプリント

8 板書計画



9 本時の展開

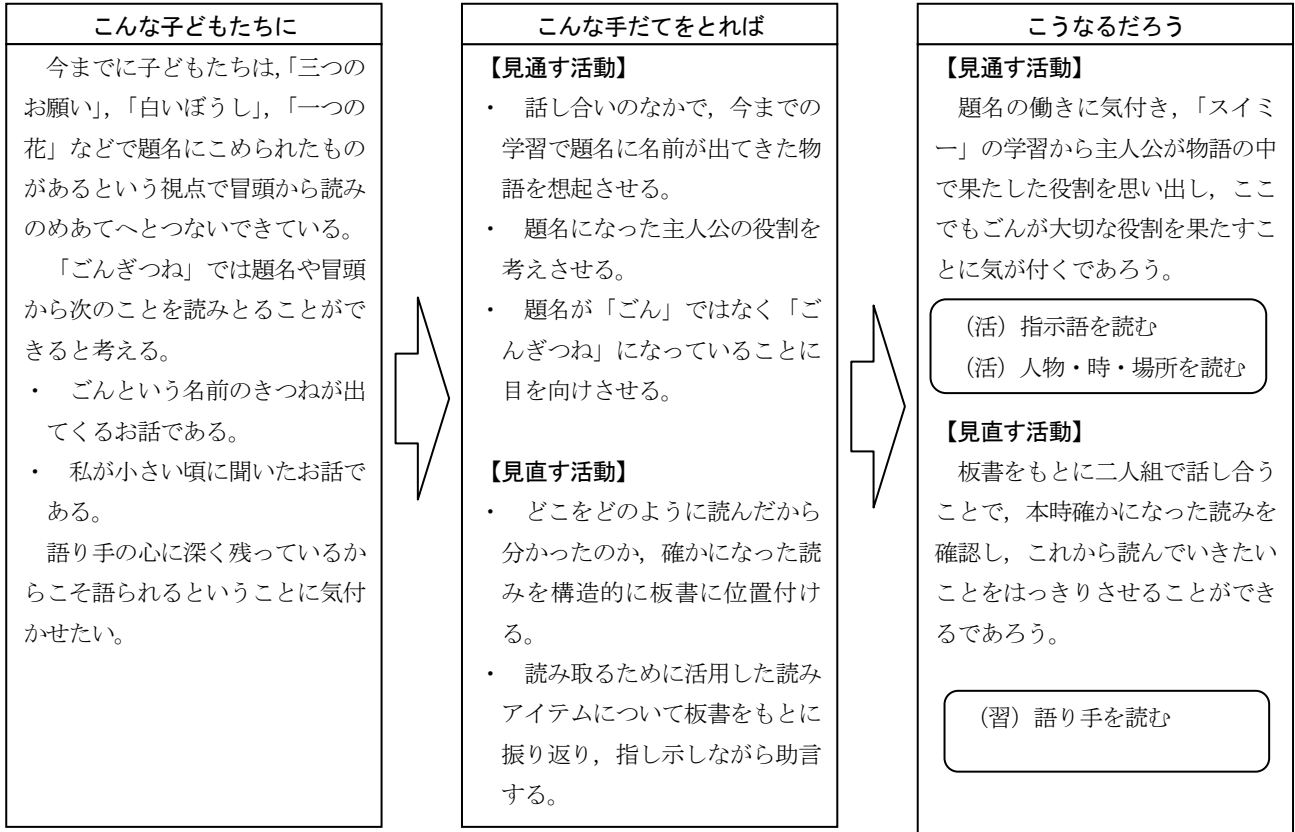
学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)
<p>1 本時の学習のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="231 309 1029 383" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて つぐないをするごんの気持ちを読み確かめよう。</p> </div> <p>(1) 本時場面を音読する。 (2) 見通す活動を行う。</p> <div data-bbox="175 459 774 824" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見通す活動】 本時の中心文や、書き込みの時に使った読み方を確認する。そして、自分の書き込みについて隣の人に伝える。</p> <div data-bbox="199 616 742 795" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>僕は、かかえてを「持って」という言葉と比べて読みました。すると、かかえての方がくりを大事にしていることが読みました。</p> </div> </div> <p>2 書き込みをもとに、ごんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「おれとおなじ、ひとりぼっちの兵十か。」からごん の気持ちについて話し合う。 ○ 1の場面でひとりぼっちの寂しさからいたずらをする ごんの様子をつないで、兵十に自分の寂しさを重ねてみ ているごんの様子</p> <p>(2) 償いをするごんの様子から、兵十への思いを話し合う。 ○ 「次の日には」「次の日も」「その次の日には」から 何日も償いを続けるごんの様子</p> <p>3 本時学習をふり返り、まとめる。</p> <p>(1) 見直す活動を行う</p> <div data-bbox="175 1541 774 1951" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見直す活動】 まず、今日読み取ったことを隣の人に伝える。次に代表児が板書を指しながら発表する。</p> <div data-bbox="199 1691 742 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>私は、「どっさり」と「かかえて」と「松たけ」をつないで読むと、ごんは兵十に対してごめんねと反省している気持ちや兵十を喜ばせたいという思いで一生懸命償いをしていました。</p> </div> </div> <p>(2) 見直す活動をもとに話し合ったことを書きまとめる。</p>	<p>○ 前時の書き込みに目を通し、解釈の違いや全体の傾向を把握しておく。</p> <div data-bbox="821 459 1420 694" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 自分が書き込みをした内容と使った読みアイテムをつないで二人組で交流する。 ○ 二人組で話し合う際のモデルを提示する。</p> <div data-bbox="861 593 1332 683" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★ 似た言葉と比べて読む ★ くり返しを読む</p> </div> </div> <div data-bbox="821 705 1420 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★ 似た言葉と比べて読む 「かかえて」と「持って」を比べて読み、ごんの様子への思いに気付かせる。</p> </div> <div data-bbox="821 873 1420 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★ くり返しを読む 「次の日には」「次の日も」「その次の日には」から何日も償いを続けるごんの様子への同情や喜ばせたいという気持ちに気付かせる。</p> </div> <div data-bbox="821 1075 1420 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆ 場面と場面をつないで読む 1の場面でひとりぼっちの寂しさからいたずらをするごんの様子をつないで読み、兵十の寂しさを自分に重ねるごんの様子について考えさせる。</p> </div> <p>○ 一人一人の読みを把握したカルテをもとに、意図的な指名を取り入れ、読みのよさを生かした話し合いを展開する。 ○ 「次の日には」「次の日も」「その次の日には」から何日も償いを続けるごんの様子、兵十への同情や喜ばせたいという気持ちの高まりがあることを読み取らせる。 ○ どんな読みアイテムを使って読んだのか確かめながら話し合いを進めるようにする。</p> <div data-bbox="821 1579 1420 1848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ どこをどのように読んだからごんの様子や気持ちが分かったのかをはっきりさせるために、確かになった読みを構造的に板書に位置付ける。 ○ どの子にも読みの深まりを感じさせるために、個人カルテを活用し、板書を指し示しながら助言する。</p> <div data-bbox="861 1792 1348 1836" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆ 場面と場面をつないで読む</p> </div> </div> <p>○ 書きまとめの視点として、本時場面で読み取ったごんの様子や気持ちとそれを自分の経験とつないで自分の考えを書きまとめるようにさせる。 ○ 本時でのよさやがんばりを評価しながら、読みアイテムとして整理する。</p>

4 本時 (1/17 つかむ段階) 公開授業① 4年 組教室にて 指導者

5 本時の目標

- これまで学習した物語文の題名にこめられたものを想起し、題名や冒頭から物語の設定を読み取ることができる。
- 「これは」という指示語がこれからのお話を指し、お話を強調していることや、「わたし」という語り手が設定されていることで作者の思いがあることに気付き、読みのめあてをつくることができる。

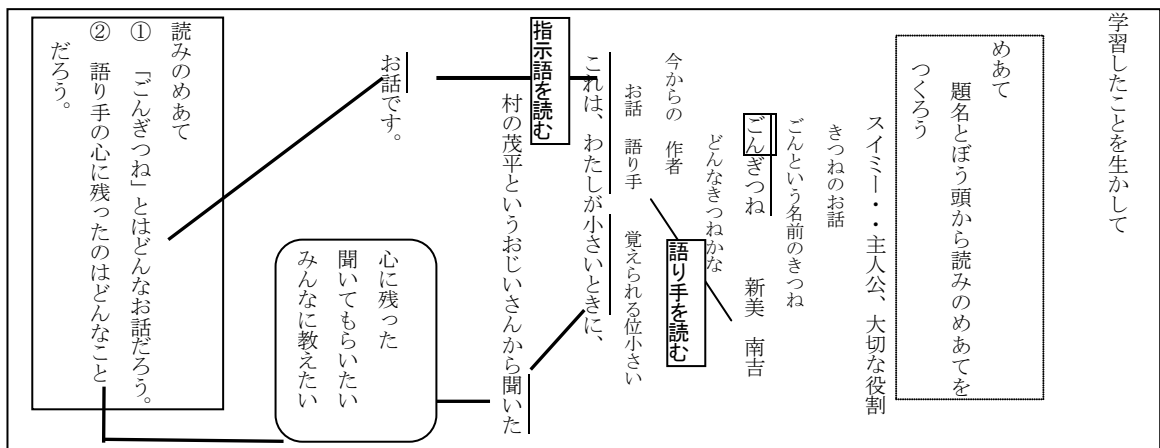
6 本時の授業仮説





7 準備

- 教師…読みアイテムの札
- 子ども…読み取りプリント

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)
<p>1 本時学習のめあてを確かめる。</p>	<p>○ 今までの題名や冒頭を読むときの読みアイテムを提示する。</p>
<p>めあて 題名とぼう頭から読みのめあてをつくろう</p>	
<p>2 既習の物語を想起し、題名から考えたことや疑問に思ったことを話し合う。</p>	
<p>(1) 見通す活動を行う。</p>	
<p>【見通す活動】 今までの学習した題名についてそのこめられたものを思い出し、題名について考えたことを発表する。</p> <p> 「ごんぎつね」からごんというなまえのきつねが出てくるお話だと分かります。また、ごんぎつねの名前になにか意味がこめられているのかもしれない。</p>	<p>○ 話し合いのなかで、今までの学習で題名に名前が出てきた物語を想起させる。 ○ 題名になった主人公の役割を考えさせる。 ○ 題名が「ごん」ではなく「ごんぎつね」になっていることに目を向けさせる。</p>
<p>(2) 冒頭の部分で自分が疑問に思ったところに着目して書き込みをする。</p>	<p>○ 疑問に思うところに視点をあて、その何が分からないかを書かせる。 ○ 読み取った内容をもとに、数名の子どもに読みを出させ、その違いや疑問をもとに、話し合いを展開していく。 ○ どんな読みアイテムを使ったのか確かめながら話し合いを進めるようにする。 ○ 必要に応じて、問題点や対立点を整理したり、問い返しを行ったりする。</p>
<p>(3) 冒頭から読み取ったことを題名とつないで話し合う。</p>	
<p>○ 「これは」を題名とつないでこれからのごんのお話のことであること ○ 「わたし」は作者の意図を反映した語り手を表していること ○ 語り手が小さい頃に聞いて今も覚えているお話だということ ○ 語り手がみんなに話したいことには語り手の思いがあること</p>	<p>★ 指示語を読む 「これは」を読み、これから話す話を強調していることを読み取らせる。</p>
	<p>★ 人物・時・場所を読む 「わたし」は語り手であることに気付かせる。</p>
	<p>☆ 語り手を読む 語り手の心に残っていることを伝えたいという思いを読み取らせる。</p>
<p>3 読みのめあてをつくり、本時学習をふりかえる。</p>	
<p>(1) 読みのめあてをつくる。</p>	
<p>① 「ごんぎつね」とは、どんなお話だろう。 ② 語り手の心に残ったのはどんなことだろう。</p>	<p>○ 板書を振り返るなどしながら疑問に思ったことを発表させ、読みのめあてをつくっていく。</p>
<p>(2) 見直す活動を行う。</p>	
<p>【見直す活動】 話し合いを通して確かになった読みについて二人組で話し合い、書きまとめる。</p> <p> ごんぎつねが主人公のお話で作者がみんなに聞かせたいお話とはどんなお話か読んでみたい。</p>	<p>○ どこをどのように読んだから分かったのか、確かになった読みを構造的に板書に位置付ける。 ○ 読み取るために活用した読みアイテムについて板書をもとに振り返り、指し示しながら助言する。</p> <p>☆ 語り手を読む。</p>
<p>(3) 本時使った読みアイテムについてふりかえり、「今日の学習で」を書きまとめる。</p>	<p>○ 本時でのよさやがんばりを評価しながら、読みアイテムとして整理する。</p>

5 本時の目標

- 引き合わないなあと思いつながりながらも償いを続け、死んでからしか兵十に分かってもらえなかったごんのさびしくせつない気持ちを読み確かめることができる。
- 「指示語を読む・場面と場面を比べて読む・ことばをはずして読む」読みアイテムを活用し、「場面をつないで読む・呼称の変化を読む」読みアイテムを習得できる。

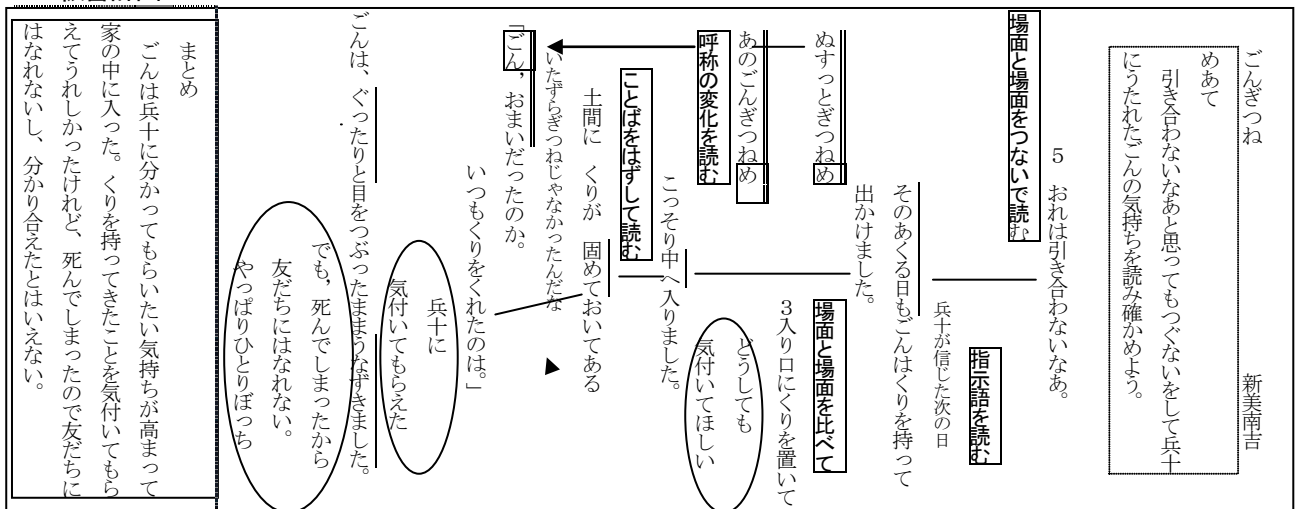
6 本時の授業仮説





7 準備

- 教師…前時までの学習の足跡を記した掲示物、子どもの考えを一覧にしたカルテ、読みアイテムの札
- 子ども…読み取りプリント

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)
<p>1 本時の学習のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 引き合わないなあと思ってもつぐないをして兵十にうたれたごんの気持ちを読み確かめよう。</p> </div> <p>(1) 本時場面を音読する。 (2) 見通す活動を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【見通す活動】 自分の読みと書き込みの時に使った読みアイテムを二人組で伝え合う。新しい気づきがあれば付加する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>ぼくは、「こっそり」をはずして読みました。見つけたくないけど、本当は気付いてほしくて中まで入っているごんの気持ちがわかりました。</p> </div> </div> <p>2 書き込みをもとに、ごんの様子や気持ちを話し合う。 (1) つぐないを続けたごんの気持ちについて話し合う。 ○ 3場面とつないで兵十を自分と同じひとりぼっちにさせたくないごんの気持ち ○ 3場面と比べて中へ入って気付いてもらいやすいようにしたごんの気持ち (2) 撃たれてうなずいたごんの気持ちを話し合う。 ○ 呼称の変化から、気付いてくれた喜び ○ 気付いてもらえたけれど死んでしまうかなしさ ○ 気付いてもらえても結局は分かり合えないさびしさ</p> <p>3 本時学習をふり返り、まとめる。 (1) 見直す活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【見直す活動】 まず、今日読み取ったことを隣の人に伝える。次に代表児が板書を指しながら発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>ごんは兵十への気持ちが高まって中に入ってしまったことが3場面と比べて読んで分かったよ。兵十のごんへの見方が変わったことは呼び方で分かったけど、兵十はつぐないのことを分かったわけではないし、ごんは死んでしまうからやっぱり最後まで一人ぼっちのさびしさがあることが分かったよ。</p> </div> </div> <p>(2) 見直す活動をもとに話し合ったことを書きまとめる。</p>	<p>○ 前時の書き込みから、解釈の違いや全体の傾向を把握しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読みの違う二人組を意図的に構成する。 ○ 読みと使った読みアイテムを分析した個人カルテをもとに、助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ 指示語を読む。 ★ 場面と場面を比べて読む。 ★ ことばをはずして読む </div> </div> <p>○ 一人一人の読みを把握したカルテをもとに、意図的な指名を取り入れ、読みのよさを生かした話し合いを展開する。 ○ 自分の読みを発表する際、根拠の叙述、使った読みアイテムを合わせて話させるようにする。 ○ 読みアイテムが出てきた時に板書にカードを位置づける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★ 場面と場面を比べて読む 3場面では入り口に栗を置いたのに今度は中まで入っていることから兵十に近づきたいごんの気持ちの高まりを読み取らせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆ 場面と場面をつないで読む 3場面で兵十が自分と同じひとりぼっちになったこととつないで、兵十のことをを思い、つぐないを続けているごんの気持ちを読み取らせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆ 呼称の変化を読む 「ぬすつとぎつねめ」「あのごんぎつねめ」「ごん」という呼び方の変化から兵十のごんへの見方の変化を読み取らせる。</p> </div> <p>○ 栗に気付いてもらえたものの、つぐないを分かってもらえたわけではないことから、兵十と分かり合えてはいないことをとらえさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時場面で読み取ったごんの様子や気持ちについて板書をもとに、使った読みアイテムとともにことばをつないで話させる。 ○ 個人カルテをもとに読みの深まりを自覚できるよう板書を指し示しながら叙述と読みをどうつなぐといいかを助言する。 ○ 本時習得した読みアイテムをいれて話し合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 場面と場面をつないで読む ☆ 呼称の変化を読む。 </div> </div> <p>○ 数人に発表させて、本時でのよさやがんばりを評価しながら、読みアイテムを整理する。 ○ 語り手が伝えたいことを題名が「ごんぎつね」であることから考えていくことを伝える。</p>